

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4094000033		
法人名	医療法人社団 緑風会 水戸病院		
事業所名	グループホーム水戸		
所在地	福岡県粕屋郡志免町志免東4丁目1番2号		
自己評価作成日	平成28年11月1日	評価結果確定日	平成28年12月1日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートうりずん
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号
訪問調査日	平成28年11月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム水戸は、医療法人社団緑風会水戸病院(居宅介護支援、訪問介護、介護ステーション等、看護・介護の関連事業所を併設しています。)を母体に緑豊かに四季の移り変わりを感じられる自然環境に富んだ敷地内の一角にある4階建ての2、3階に開設しています。”ゆっくり。一緒に、楽しみながら その人らしさを大切にした生活を送る”を理念に掲げ、家庭的な雰囲気の中で暮らしていただけるようにスタッフ一同取り組んでいます。入居者様の有する機能をできる限り引き出すように施設内1階においては週2回、医療的な精神的ケアも併せて行っています。地域に開かれたホームの実現を目指し、運営推進会議では、行政担当者、地域支援センター職員、地域代表者等の方々に出席して頂き、情報収集、発信を行い、地域の拠点となるように努めています。

理念の具現化をミーティング等で話し合い、入居者のペースに合わせた支援で、入居者が明るく笑顔が多くなり、訪問するのが楽しいと話す家族もあり、職員の喜びとなっている。家族の理解を得て、入居者全員が包丁を使って干し柿づくりをしたり、入居者に献立決めやテーブル拭きや片付けをお願いするなど、入居者を中心とした生活を目指している。また、他医療機関の訪問看護と連携して、ぎりぎりまでホームでの生活を支援した入居者は入院翌日に逝去され、葬儀ではホームを名指しで謝辞が述べられた。今年度、敬老の日で開催した家族交流会には17家族の参加があり、町内同業者等との情報交換、入居者とともに町や町内事業者主催の認知症カフェに参加するなど、家族の理解や地域関係者等と連携した地域密着型サービスが実践されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが			

	1. 調査項目	4. ほとんどいない
--	---------	------------

自己評価および外部評価結果

ユニット/
事業所名 **2階/グループホーム水戸**

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	申し送りの前には、理念の読み合わせを、その日の勤務者で行い、自覚するように心掛けている。また、出来ていないスタッフに対しては、その場で助言、指導するようにしている。	理念を実践するために、日々話し合いをしている。入居者のペースに合わせた支援で、入居者が明るくなったり笑顔が多くなり、訪問するのが楽しいと話す家族もあり、職員の喜びとなっている。	理念をさらに具現化するために、入居者や家族、職員が成果を実感できる目標の話し合いや実践を期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	志免町主催の認知症カフェに参加している。また同じ町内のデイホームの認知症カフェに参加し、地域の方との交流を積極的におこなっている。	入居者と一緒に、母体法人主催の行事、町や町内事業者主催の認知症カフェに参加している。管理者はカフェの目的を理解し、認知症の人やその家族、地域の方々の交流の場づくりに関わりたいと話している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	まだ不十分な段階であるが、母体の法人が認知症医療センターとなり、地域の方へのシンポジウムなどを行っているため、積極的に参加・手伝いをしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度行っている。施設での取組みや、今後の予定等を報告させて頂いたり、今後の方針などをお伝えしている。またご家族からの要望などを聞いて、今後に生かしている。	入居者や家族、地域代表等の参加で定期的開催され、各ユニット玄関に会議録を公表している。入居者の状況や行事を報告し、参加した入居者も発言している。終末期でぎりぎりまでホームで生活され、入院間もなく逝去された方の状況も報告している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議や、志免町の認知症関係者会議などに参加し、他の施設のかたの話を聞くことで、参考にさせていただき、ご助言をいただき、質の向上に努めている。	町内認知症関係者会議に参加し、同業者等と情報交換をしている。母体法人が県認知症医療センターとして、町内外に情報を発信している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体安全、安心対策委員会を設け、ベルトゼロを目指している。ベルトがなくても安全に過ごせるように、接し方なども何度も話し合いを重ね、安全に生活できるよう対応している。	毎月各ユニット毎に委員会を開催し、車イスのベルト着用などについて話し合い、会議録を整備している。家族や本人の希望で車イスのベルトを使用している方もあり、食事時ははずすなど、状況に応じた対応が行われている。	
7		○虐待の防止の徹底	法人の院内研修に積極的に参加すると共に、		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	言動で気になるスタッフには、面談、指導を行っている。また問題のある行動を見つけた場合は、全スタッフを集め、指導している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人の院内研修への積極的参加、また院外研修に積極的に参加してもらい、伝達講習をしてもらうことで、情報の共有や、知識の向上に努めている。	1名の入居者が成年後見制度を活用しているが、後見人の来訪が少なく、連携しづらい状況である。今のところ、関係機関と連携し、日常生活自立支援事業や成年後見制度を薦める入居者や家族はいない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時は、必ず2名のスタッフで対応させていただいている。また、面会時などは、必ず声かけを行い、ご家族様の不安や、気持ちなどをお聞きするようにしている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各階の入り口に意見交換箱を設置している。また運営推進会議や、ご家族の面会時などで、意見交換の場を設けている。今後は、家族同士の交流の場を増やしていきたいと考えている。	敬老の日に家族交流会を開催し、今年度は17家族が参加しているが、家族からは特段の意見はなかった。家族来訪時は職員が随時当該入居者の日頃の状況を報告し、意見の表出を促している。今後は、家族会の立ち上げを検討している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に、面談を行い、アンケートなどでスタッフ一人一人の気持ちを知らすように心がけている。	管理者は毎月開催する各ユニット毎のミーティングで職員と話し合いながら、理念に沿ったケア方針や職員体制作りを行っている。毎月開催される法人会議に出席し、ホーム運営等について事務長に相談できる体制が構築されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修の際は、勤務等を配慮するとともに、日々真摯に介護に携わってくれているスタッフには、労を労い感謝の気持ちを伝え、より高い向上心を持ってもらえるように心がけている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用にあたっては、法人の採用担当者と一緒に面接を行い、ご本人の希望や、介護に対する思いなどを聞くようにしている。また一緒に働いている職員の目標に沿い、研修等の参加の声かけや情報の共有などを積極的に行っている。	20歳～60歳代と年齢に幅のある職員が雇用されている。母体医療機関からの配置転換もあるが、ホームで継続して就労したいと話す職員もいる。新人研修プログラムに沿った研修や、職員の段階に応じてユニット間で異動したり、外部研修参加を推奨している。仕事が楽しいと話ず職員もあり、いきいきと就労できる職場づくりをしている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	法人の院内研修や外部の研修などに積極的に参加してもらい、今の自分たちに足りないことはなかなど、自問自答する時間を作るようにしている。	毎年法人主催の人権研修が開催され、全職員が参加している。入居者への言葉遣いや対応については、日ごろから留意しているが、入居者本位のサービスを提供しているかを機会ある毎に振り返っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々のスタッフに一番足りていない部分を日頃の業務の中で見極め、その人に合った研修に参加してもらい、振り返り等をしてもらっている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	認知症グループ協議会へ参加することで、他の施設の良い点などを積極的に取り入れさせて頂いたり、認知症カフェなどにでかけ、交流の場を設けている。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時、不安の大きいご家族、入居者様に対し、警戒心を持つことなく、すべてを安心して受け入れられるように心掛けている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	まず第一に、コミュニケーションをはかり、そのうえで日常の会話の中で不安なこと、困っていることを聞くようにし、共感、受容をするようにしている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネージャーを中心にしっかりとした関係性をとり、入居者様の支援について話し合いを行い、支援にあたっている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護者本位の介護にならないように、その方のペースに合わせた動きができ、協力ができているかを常にスタッフには考えてもらい、出来ていない時は、スタッフ同士が声掛けをするようにしている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	スタッフには、まず入居者様の生きてきた”あゆみ”、寄り添ってこられたご家族の思いなどを自分で情報収集してもらっている。また受け持ち制を取り、常にご家族と連絡をとりコミュニケーションを図るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	積極的に面会をしてもらえよう、ご家族にもお願いしている。また入居者様のなじみの場所などは、ご家族に協力をもらいながら、行けるように努力している。	自宅で一緒に過ごしたり、毎週訪問される家族もあり、天候などを考慮しながら公園の散歩を促すこともある。元医師のご夫婦が紙芝居をされているため、近々お願いする予定である。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様たちの関係性を把握したうえで、その時、その場所にあった活動を行っている。また誕生会や季節ごとのイベントなども、“みんなで楽しむ”を目標、指針としている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	身体的な理由で入院生活を余儀なくされるときなども、面会に積極的に行かせていただき、ご家族に寄り添うことを大事にしている。1度でも入居された時点で、自分の家族と同じ思いで接している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時や、面会時にしっかりと話しを聞かせていただいている。またケアマネージャーを中心に入居者、ご家族様の意向に沿ってどのように支援させていただくかを話し合いを行っている。	センター方式の私の生活史シートを整備している。日々のケアの中で入居者の思いを把握し、全職員が入居者の状況を家族に報告することで、家族から信頼される関係づくりに努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ひもときシートの活用、情報の共有を積極的に行い、徹底するようにしている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝の体調チェックや夜間帯の状況など、受け身の情報だけではなく、自分から積極的に情報を得るようにし、「何かちがう」と感じた兆候は、見過ごさず、注視するようスタッフへは指導している。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケア会議を月に1回行っている。しかし、日々大きな変化のある方や、早急に変更すべきこと、またこうした方がいいのではという意見が反映できるようにノートの活用や、スタッフ同士のコミュニケーションも大事にしている。	ユニット毎のケア会議で、モニタリング結果に沿って計画の作成や見直しをしている。職員を先生と呼びかけ、食事を食べていないと再三話す入居者に十八番の歌と一緒に歌ったり、丁寧な対応を繰り返している。	ひもときシートの活用で、入居者の言動の背後にある感情を共感的に理解しながら、現状に即したケアの実践を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録については、その時に起こった事柄は、口頭の申し送りではなく、正確に記録に残すよう指導している。また研修に参加したスタッフに、伝達講習をしてもらうように努めている。。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その方に合った個々のサービスを提供するためご家族とケアマネージャーの意思疎通を十分に行うようにしている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者様の心身の状態を把握し、生活の質を下げることのないように地域の支援センターなどとも連携を図っている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当法人の理事長の往診が2週間に1度あり、その他、気になる時は、すぐに診察していただけるようにしている。また1週間に1度、歯科の往診も行われている。。	かかりつけ医の定期的な往診があり、往診内容は申し送りで全職員に周知し、専門医療機関受診時はかかりつけ医の紹介状を持参している。管理者が看護師のため、タイムリーな医療的ケアが行われている。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者様の少しの変化も見逃さないように、“おかしいな”と思うことは、まず声に出すことを心がけている。また看護師、介護士ともに情報の共有に努めている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様が入院された場合は、入院先のスタッフとも、ご家族の意向や、自分たちの知り得た情報を共有するようにし、入院中も、ソーシャルワーカーと連絡を取り合うようにしている。。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、入居者様の急変時の対応について、ご家族、入居者様の意向を確認し、またスタッフも情報を熟知したうえで、慌てず対応できるように心がけている。また状態の変化に伴い、ご家族、担当医師をふくめ、再度方向性の確認を取るようにしている。	本人や家族の希望で、重篤な疾患の入居者を他医療機関の訪問看護と連携して、ぎりぎりまでホームでの生活を支援している。入院した翌日に逝去され、葬儀ではホームを名指しで謝辞が述べられた。参列した職員からホームで働けて良かったとの感想もあり、希望があれば今後も終末期の支援を検討する予定である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	院内研修、外部研修により知識を身につけ、事故発生時に慌てることなく冷静に対応できるように定期的に訓練している。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非常災害訓練を行っている。また隣接する病院のスタッフ、同施設内にあるデイケアのスタッフにも災害訓練時には、参加して頂いている。	夜間対応の避難訓練を実施しているが、火事を知らせる一斉放送に手間どったとの反省もあった。母体法人で備蓄はしているが、昨今の自然災害を考慮し、ホーム独自でカップ麺や真空パックのご飯、飲料水などを備蓄し、台帳を整備している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様は、人生の大先輩であること、尊敬の気持ちを忘れることなく、対応するようにしている。またどの方にも寄り添う、受容する気持ちを忘れないように心掛けている。	大声を出していた入居者が職員の関わりで落ち着いたことから、理念のゆっくりと一緒に楽しみながらの支援に努めている。入居者に穏やかな声かけや誘導が実践され、調査員にここは良い所と話す入居者もあった。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ゆっくりと、入居者様一人一人に個別に対応するように心がけている。また自分の思いを表出できるように、食事のメニューを随時決めて頂いたりしている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	理念に基づきその人らしく、個別性のある関わりを行っている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日に着る洋服は、極力自分で決めて頂き、朝の整容なども、普段私たちが日頃行っている当たり前のことを、当たり前、時には援助させて頂きながら行っている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を今までは、スタッフが決め提供していたが、少しずつではあるが、入居者様に献立を決めて頂き、食事の準備や、片づけなどもスタッフ本位ではなく、入居者様と一緒に行うようにしている。	家族の了解を得て、入居者全員が包丁を使って干し柿づくりしている。包丁を持ってもらうことを心配する職員もあったが、手際の良さには職員も驚かされている。入居者に献立決めやテーブル拭きや片付けをお願いするなど、入居者を主体とする食事づくりに努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	内科疾患のある方や、体重の増減の大きな方には、担当医、家族にも相談しながら、無理のないような食事を提供している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、その方に合ったADLに合わせ、必要時はスタッフが介助しながら、口腔ケアをおこなっている。また口臭など気になる方には、歯科往診により、口腔ケアの指導をして頂いている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	自力で立てない方でも日中は、トイレに座り排泄をしてもらうようにしている。またその方々にあった排泄誘導を行っている。	座位での排泄を職員2人体制で支援したり、夜間もトイレ誘導している。再三尿意を訴える入居者もあり、かかりつけ医から畜尿のアドバイスを受け、排尿間隔を伸ばす声かけや支援を行っている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	なるべく、'歩いてもらうこと'、'トイレに座る習慣をゆっくりとつけてもらうこと'、'水分を定期的に飲んでもらうこと'を心がけている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	時間を気にすることなく、一人一人がプライバシーを守られ、ゆっくりとお風呂に入れるようにしている。入りたくない方には、無理強いせず、その方が入りたいときに入るように心がけている。	週3回の入浴日は、3階の介護度の重い入居者にもゆっくりと入浴してもらいたいと、余裕のある職員体制にしている。時間を急かされたり、同性以外の職員の介助が入浴拒否になることを理解した支援が実践されている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個別に応じて、昼夜問わず、休みたいときは休めるようにしている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様の薬の内容、作用をスタッフが把握できるようにしている。また副作用についてもしっかりと伝え、観察を見逃さないようにしている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	皆で行う、活動(歌や体操、ゲームなど)の時間を大事にしている。、また無理強いせず、個別での対応もしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年に2回、バスハイクを行っている。また隣接する売店にお買い物にいたり、隣接する喫茶にでかけたり、など、外出をし、肌で季節の変化を感じてもらっている。	年2回のバスハイクは全員参加で八幡宮やバラ園に出かけている。日頃は隣接する医療機関の売店や喫茶店に職員や家族と出かけたリ、家族と散歩する入居者もある。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族ともよく話し、お金を自分で持たれている方は、外出先などで実際に使われている。またスタッフと買い物に行かれる時は、入居者様に金銭の出し入れをお願いしている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙などは、自由にできるようにしている。電話がかけられない人には、スタッフが一緒に行っている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同の空間には、手すりもあり、またトイレやお風呂なども広いつくりになっている。また地熱空間設備もあり、冬は暖かく過ごすことができる。	4階建ての2・3階にグループホームが開所している。廊下や共用空間は広く、対面式厨房前にテーブルとイスが設置され、ソファやテレビが一角に置かれている。食後も、定位置の座り地の良い椅子で過ごす入居者も多い。広いベランダには剥いたばかりの干し柿が吊され、プランターでは野菜が栽培され、季節を感じる光景となっている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各自、しっかりとした個室があるほか、リビングにはソファを設置し、各々が気の合う方とテレビを観たり、談話できるようになっている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドなどは備え付けてあるが、ご家族、ご本人様の意向も聞きながら、対応させて頂いている。また写真や、昔から大事にされていたものを部屋に飾らしていただいている。	居室入口に表札を掲示し、居室間違いを予防している。筆筒の上に家族等の写真を飾っている居室が多く、仏壇を持参されている入居者もある。清掃や整理が行き届き、居心地よい居室づくりが行われている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	過介護にならないように、手を出しすぎないように援助させていただいている。		